

# 兵庫県東部地区眼科医会 学術講演会

(専門医認定事業 申請中)

日時：2018年**11月10日** (土) 16:00～18:30

会場：西宮神社会館

〒662-0974 兵庫県 西宮市社家町1-17 TEL:0798-23-3311

会費：1,000円

## プログラム

【一般講演】 16:00～16:20

演題：「角膜内皮移植（仮）」

兵庫医科大学眼科学講座 学内講師

細谷 友雅 先生

【特別講演Ⅰ】 16:20～17:20

座長 兵庫県東部地区眼科医会会長 さいとう眼科 齊藤 喜博 先生

## 「病態から考える加齢黄斑変性と類似疾患」

演者 大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学  
教授 本田 茂 先生

<コーヒーブレイク>

【特別講演Ⅱ】 17:30～18:30

座長 兵庫医科大学眼科学講座 講師 木村 直樹 先生

## 「半端ない！マイボーム腺講座」

演者 伊藤医院 副院長 有田 玲子 先生

ご講演終了後、意見交換の場をご用意しております  
託児所をご用意しております

共催：兵庫県東部地区眼科医会 参天製薬株式会社

## 特別講演 1

### 『病態から考える加齢黄斑変性と類似疾患』

大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学  
教授 本田 茂 先生

加齢黄斑変性(AMD)は我が国を含む先進国の主要失明原因であり、今後も患者数の増加が予想されている。一方、AMDに対する治療法も発展し、患者に大きな福音をもたらした。しかしながら最近ではAMDの一治療法である抗VEGF薬硝子体注射の治療デザインをどうするかという話題が中心でAMDの病態考察に根差した診断と治療選択は殆ど議論されなくなった感がある。元来AMDはheterogenicな疾患のため、各症例の病態を理解した上で治療選択をすることが必要である。日本人のAMDは欧米のそれとは異なる点が多々あり、その代表であるポリープ状脈絡膜血管症(PCV)は臨床的にしばしば典型AMDと異なる経過をとるが、最近ではpachychoroid spectrum diseaseという概念も登場して、PCVと今まではAMDの範疇になかった中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)とが関連している可能性も示唆されている。本講演ではAMDと類似疾患の病態的共通点と相違点について最近の臨床遺伝学研究の結果も踏まえて考察する。また、病態を考慮した治療選択によって無駄な治療を避け、効率的なAMD治療ができる可能性について議論したい。

## 特別講演 2

### 『半端ない！マイボーム腺講座』

伊藤医院 副院長 有田 玲子 先生

涙液の厚みは約7 $\mu$ m、そのうち最表層の100nm程度が油層（涙のあぶら）である。しかし、たった100nm程度の涙のあぶらは涙液の中で“半端ない”役割を担っている。涙のあぶらは瞼板に存在するマイボーム腺から瞬目するたびに分泌されて涙液の蒸発を抑制している。2012年にドライアイの86%はマイボーム腺機能不全（以下、MGD）に関連している、という報告がなされて以来、マイボーム腺の“半端ない”重要性に世界中が注目するようになった。今やMGDはマニアックな疾患ではなく、common diseaseなのである。本講演では、MGDの簡便な診療から最先端の診療まで、さらに国際的に話題のホットピックスを含め、多くの写真や動画を交えて症例提示を行い、明日からの日常診療に役立つようなコツとスキルをシェアする“半端ない”マイボーム腺講座を行う予定である。